

Contents

報告「国連エイズ特別総会ハイレベル・レビュー会議」.....	1
ふれいす東京 第6回総会・活動報告会 開催...	3
「第20回日本エイズ学会学術集会」来る！	4
NLGR2006	5
活動報告	5
ボランティア募集！	8

報告「国連エイズ特別総会ハイレベル・レビュー会議」

国際連合（国連）日本政府代表部 参事官 山本尚子

2006年5月31日 - 6月2日、ニューヨーク国連本部において「国連エイズ特別総会ハイレベル・レビュー会議」が開催された。我が国からは政府代表団として森前総理、関係省庁、市民社会代表が出席した。この会議の詳細については、市民社会代表者らが共編した「グローバルなエイズ対策への市民社会の参画」と題する報告書が出ているので是非それをお読みいただきたいが、国連代表部の担当者として政治宣言の取りまとめ協議に関わった立場から今回の会議を振り返ってみたい。

レビュー会議の意義・評価

今回のレビュー会議の最大の意義はエイズ対策への国際社会における「政治的関心と弾み」の維持であった。2000年代に入り国際政治の舞台では、2000年の沖縄感染症サミットと国連ミレニアム総会、2001年国連エイズ特別総会、さらに2005年グレンイーグルスG8サミット、9月国連サミット等と、エイズ対策への関心と政治的関わりは継続され、世界基金の設立と資金確保、途上国自らの取り組み促進につながった。今回の会議は、2001年国連エイズ総会で作された「誓約宣言」の達成状況を評価し、今後の各国や国際社会の取り組みに政治的弾みをつける目的で開催されたのだが、アナン事務総長の各国トップへの親書送付、ピオットUNAIDS事務局長自ら各国大使へ直接働きかけたこともあり、結果として国家元首・首相級15名、大臣級85名が参加し、一応成功したといえる。ただし、この会議を国連で行われる大きなイベントの一つに終わらせることなく、各国・各地域での動き（うねり）につなげる必要性を多くの関係者が認識していたものの、ニューヨークのメディア以外の各国メディアの関心は低く、各国への瞬間的インパクトは

小さかったと言わざるを得ない。

第二の意義（あるいは批判）は、いくつかのポジティブな要素が盛り込まれたものの既存のラインを守った「政治宣言」が採択されたことであろう。会議のプログラムや成果文書の形式については逐一国連総会での決議を経る必要があったのだが、当初「政治宣言」をまとめることを決定した際には、2001年の「誓約宣言」の議論を蒸し返すことなく政治的意思を示す極短い宣言にとどめることでやっと合意されていた。しかし、国・地域レベルのコンサルテーションの過程で個別の課題が浮き彫りになったことと市民社会による戦術的アドボカシーの結果、政治宣言はより具体的内容に踏み込まざるを得なくなった。

主な論点は、1.「普遍的アクセス」に向けて予防、治療、ケア・サポートに関する具体的な数値目標を設定できるか、2. 資金確保について踏み込んだ記載ができるか、3. 知的財産保護に関するWTO協定に関する記述、4. 社会的に脆弱性を持つ人々を具体的に明記できるか MSM（男性とセックスをする男性）、CSW（セックス・ワーカー）、IVDU（注射による薬物使用者）、獄中者等、5. リプロダクティブ・ヘルス及び予防手段としての「コンドーム」及び「ハームリダクション」の取り扱い、6. ジェンダー、人権に関する記載等であった。紙面の都合でそれぞれの議論の詳細を述べることはできないが、我が国の立場と留意した点は、なにより市民社会との協力で充実させてきた宣言文案をまとめるために貢献することだった。協議の過程で何度も「2001年の誓約宣言を確認する」のみの短い宣言にすべき、まさにそれが当初予定されたもの、との主張が持ち出されるなか、英、EU、加、ブラジルらとともに、少しでも前向きな宣言をまとめる必要性を訴えた。

個別の項目については、以下のとおり。

- ・ 1.及び2.は、各国首脳が集まった2005年国連サミットの「成果文書」を取りまとめる際に同じ議論があり、それこそ連日深夜までの議論の末、やっと合意した表現から踏みだし新たな具体的数値目標を掲げることほどのドナー国も困難であったが、我が国は、最低限「予防と治療、ケア・サポート」全て同等に重要であり2010年までに全ての「普遍的アクセス」達成を目指すことを明記するため、米国、豪、仏らが納得できる表現を提案。
- ・ 3.については、WTOでの協議を変える(進める)ことはできないが、知的所有権の保護の重要性を認めつつ、一方で公衆衛生・健康保護のためのドーハ宣言の精神を明記することを主張し、米国とブラジル、中国、インドとの溝を調整。
- ・ 4.は国際社会が脆弱な人々の存在を認識する意味で重要であり支持(結局、「脆弱な人々」との一般的表現でしか合意できなかった)。
- ・ 5.については、加、EUとともに、過去の様々な国連文書を根拠に米国、イスラム諸国を説得。
- ・ 6.のジェンダー、人権、若者について充実させる表現をEU、加とともに提案。

採択された「政治宣言」を読むと、妥協の産物で目に見える成果はなかったとの批判はあると思うが、国連191ヶ国の加盟国が合意することは簡単ではなく、文言交渉はコンセンサスを強固にしつつ粘り強く少しずつでも国際社会が合意できることを広げていく過程であり、我が国は、市民社会代表者から助言や提案をいただきながら一定の貢献をしたと思う。

今後の課題 - 2008年レビュー会議に向けて -

今回最も反省すべき点は、私を含め我が国政府に世界のエイズ対策推進のために戦略的に本会議を利用しリードするだけの力量も気概もなかったことである。例えば、英国はグレ

ンイーグルスG8サミットのホスト国として、治療に限定してはいたが「普遍的アクセス」を世界に認めさせただけでなく、本会議に先立ちユニセフ及びUNAIDSと共同でアフリカ諸国及び欧米の専門家等を集めレビュー会議を主催し、その中で「母子感染予防と妊産婦の治療確保」及び「HIV/AIDSに影響を受けた子どもの保護と社会保障制度の充実」こそ今後強化すべき分野と分析し、政治宣言に含めるようロビー活動を継続、かつ自らのODA予算をこの分野に重点配分するとともに世銀その他関係機関へも働きかけている。会議を点として捕らえて対応するのではなく、世界のエイズ対策において何が求められているのか実践を通して模索し、経験や知見を多くの国々と共有し、国連の場を利用してさらに取り組みを推進する、会議を踏み台にさらに次のステップにつなげる。英国のエイズ対策、あるいは途上国開発支援に問題がないとは思わないが、この取り組みの姿勢には学ぶところがあると思う。この点、我が国の市民社会は、少なくとも気概だけはある分、政府よりも優れていると思う。

国連における様々な協議においては、数の力、つまりどれだけ多くの国と考えを共有できるかが重要になる。EUは25カ国で共通ポジションをとり、AU(アフリカ連合)は53カ国でまとまる。今回は途上国全体がG77+中国で一致することはなかったが、例えばブラジルはラテンアメリカとカリブ諸国のリーダーとして振る舞った。単独で全ての国を納得させよう(と自ら思っている)米国は別として、我が国は自らの立場を最大限主張したものの、インド、中国、タイ以外ほとんど発言もなかったアジアの国々の意見を引き出しまとめることもできなかった。

今回のレビュー会議で確認されたことは、「今必要なのは、世界規模の新たな目標より、国レベルの具体的な目標。各国が政府、市民社会とともに実践し、モニタリング・評価を確実に積み上げるべき。その基盤があってこそ、次の世界レベルのレビュー会議が意味を持つ。」ということだろう。次のレビュー会議は2008年に行われる。今回の会議を通して、我が国の国内外のエイズ対策の課題と今後行うべきことが明確になったと思う。

編集部より

詳しく知りたい方、言葉の意味を知りたい方はこちらをご参照ください。

エイズ&ソサエティ研究会議・HATプロジェクト
<http://asajp.at.webry.info/>

今回の国連エイズ特別総会「政治宣言」、2001年国連エイズ特別総会「コミットメント宣言」の日本語訳を読むことができます。

ほっとけない世界の貧しさキャンペーン / 貧困を理解するためのキーワード
<http://hottokenai.jp/faq2/09.html>

「市民社会」「アドボカシー」などいくつかのキーワードの解説が掲載されています。

山本尚子さんのご紹介

山本尚子さんが国連日本政府代表部在任中に今回のレビュー会議がもたれたことは幸いでした。というのも彼女は12年前厚生省(当時)エイズ担当課長補佐で、横浜国際エイズ会議を成功に導いた陰の主役であり、その年の末に開催されたパリエイズサミットの政府代表団にNGOとHIV陽性者代表を公式にくみ入れることに尽力してくれた人なのです。以来、佐世保、浦安と地方行政で腕をふるい、目下はニューヨークで仕事と生活を大いに楽しんでいるもよう。彼女の行動力と交渉力は折り紙つきなのですが、今回もヨーロッパと歩をあわせて市民社会との協働による政治宣言にむけて大活躍だったと参加者一同の声。「早く帰ってきてよ」とは池上の勝手な希望なのですね(池上記)

ぶれいす東京 第6回総会・活動報告会 開催

5月28日、豊島区生活産業プラザにて、特定非営利活動法人ぶれいす東京の第6回総会・活動報告会が開催されました。総会に引き続き行われた活動報告会には十数名が報告、58名が参加して、今年も盛会となりました。

まず、第6回総会において年度報告と会計報告が行われ、正会員により承認され無事総会が執り行われました。

活動報告会では、池上代表の挨拶につづき、恒例の部門報告。十数名もの各担当者によって、普段の活動が生々の声で次々と報告されました。一年の活動をそれぞれ数分で表現するという難しさがありつつも、現場感覚にあふれた充実した時間となりました。

後半はゲストを招いてのトークタイム。東京シューレの朝倉景樹さん、江戸川こどもおんぶずの青木沙織さん、池上代表が、「学校でも家庭でもなく地域でできること」をテーマに対談をしました。朝倉さんから、「フリースクール」などを運営するシューレの活動を通じて、いま若者がおかれている状況や、当事者としての若者の直面する難しさが語られました。青木さんは、子ども専用の電話「チャイルドライン」に耳を傾けるなかで感じている、子どもたちが安心して話ができる機会についてお話しされました。性について、そしてさまざまな情報が社会に氾濫するなかで、「学校が悪い」「家庭が悪い」と一方的に責任を転嫁するだけでなく、地域での取り組みが何をもたらすことができるかといった、共通する展望が見つかりそうな、今後の可能性を感じる対談となりました。

今年も会場いっぱい58名の参加があり、また行政や企業や、さまざまな分野での当事者が一同に会する、貴重な機会となったのではないのでしょうか。

(報告：矢島高)

「顔の見えるぶれいすの報告会」

NPO法人東京シューレ シューレ大学 朝倉 景樹
ぶれいす東京の活動報告会は、オペラのガラコンサートのようなと思いました。ホットライン、ぶ PEP、Gay Friends for AIDS、ネスト...と次々に担当をしている人がそれぞれの活動を気持ちを載せて報告しておられた。活動内容自体もとても興味深く感じましたが、それぞれの人の生の声を聞くことで、正に顔の見える報告会だと感じました。ぶれいすという人々のつながりが、体温を持って感じられたということです。消費生活の便利さが進むほど、人のつながりは解体し、人が孤独になるほどお金が必要になる世の中で、ここにも確かに自分の中だけでは完結し切れない思いを抱いた生身の人間の繋がり合いがあるのだと感じました。報告会後の懇親会にも参加させていただき、限られた時間であったにもかかわらず多くのことを共有した、という手ごたえを持つことができました。ぶれいすの活動領域は、私の団体とは違った領域ということになりますが、今回の出会いがまた心強い綱の目の広がりをつくることになったと実感しました。

「数年の時を経て」

KN

ぶれいす東京の総会・活動報告会に参加する機会を得まし



トークコーナー：左から池上代表、東京シューレの朝倉さん、江戸川こどもおんぶずの青木さん

た。自分自身も以前、PGMに参加させて頂き、ぶれいすにお世話になりました。それから既に数年経つのですが、まず驚いたのは、ぶれいすが本当に限られた資金で運用されているという事。それよりもその限られたリソースの中で様々な方々が様々なプログラムを通して、本当に必要なケア・サポートを提供しているという事でした。自身にも最近本当に身近なものに不幸があり、ぶれいすのように「相談できる」「話を聞いてくれる」「経験をシェアできる」という単純に思える事がどんなに大切で且つ心の支えになるかという事を再認識しました。

将来は、治療法が見つかりぶれいすがその当初の役割を終える日がくるかもしれませんが、ただ、自分もPGMを通して知り合ったメンバーとは今でも付き合いがありますし、その日が来るまではぶれいすのような組織が「心の支え」になり続ける事が本当に必要だと痛感しました。

『後天の一時契約絶対的信頼同一規範同一目標的対等関係の相棒』を思い出す」

厚生労働省 疾病対策課 三好 英文

活動報告会が終了すると、池上代表から「行政官が来てくれたのは初めてです」とお言葉を頂戴した。実は、以前にも同様のお声をかけて頂いた覚えがある。

それは、「ぶれいす東京」の誕生と同じ1994年4月に担当していた広報誌を刷新した時の事だ。確か「役人の頭も意外と柔らかいじゃない」と。

当時、池上代表には、「エイズ・ボランティア日誌」というエッセイを1年間、ご寄稿いただいていた。

毎回、軽いタッチで本質を分かりやすく表現されていた事を思い出す。中でも冒頭タイトルの言葉が登場した時は、面白い事を書く人だなと思ったが、今回の活動報告にもあった「パディ・システム」の重要性・必要性を紹介する内容であった。

報告会を拝聴し、当時、「あんな事とか」「こんな事とか」と語られていた一つ一つの内容が、今、こうして「ぶれいす東京」の活動の核となり、参加されている皆さん全てが生き生きとされていることに感動しました。

あらためて、「Living Together」応援します。

「いろいろな人と力を合わせて」

厚生労働省 疾病対策課 秋野 公造

多方面からの参加があり、自分たちの能力を発揮して、いろいろな人が力を合わせるなら、そしてこの連帯が人々の共感を得ていけるならば、問題は乗り越えることができると思いました。価値観が違う人がそれぞれの立場で働けるからこそ、多くの方のために役に立つ組織になるんだと思います。

「データが施策に評価されるとき、そこに人の姿はない」ととても含蓄ある言葉だと思いました。問題を解決する一点で人々の力を糾合することこそ大切でしょう。

また、お邪魔したいと思います。



活動報告会の会場風景

「第20回日本エイズ学会学術集会」来る!

2006年11月30日(木) 12月1日(金) 12月2日(土)の3日間、東京都千代田区で第20回日本エイズ学会学術集会が開かれます。今回、ぶいれす東京代表の池上千寿子が、初めてNGOの立場から会長をつとめ、より広範なテーマをカバーした、多彩で学際的な学術集会になることでしょう。ぜひご参加ください。

「書を捨てて学会へ行こう」

第20回日本エイズ学会学術集会・会長 /
ぶいれす東京 代表

池上 千寿子

「エー、ガツカイって専門家の先生が集まるやつでしょ。敷居高いよね。医師でもない人が参加してもわけわからないんじゃないですか。居場所がないというか…」そんな声が聞こえてきそうです。10年前、池上もそう思いこんでおりました。おそろおそろ研究発表などしてエイズ学会員になってからまだほんの10年のひよっこなのです。

それがなんと今年の学術集会(いわゆる学会)の会長になってしまいました。晴天の霹靂とはこのことです。エイズ学会理事会で推薦されたのが2年前、昨年熊本の第19回学術集会・総会で承認をいただきました。ビックリしたのは本人だけではありません。「前代未聞ですよ」と毎年学術集会に協賛している企業担当者がおっしゃいました。なぜかという過去19回の会長さんはすべて男性で医師免許をお持ちで、研究所長だったり大学教授であるわけです。そこに突然「どう見ても男性ではない。医師免許もない。アカデミズムではない民間団体のヒト」が名を連ねたわけです。

やはりエイズは社会を変えるパワーをもつと思いませんか。前例にない学会長を容認する土壌が10年でできたのかもしれない。エイズに関わる専門集団は医師だけではない、ということは認識されたような。

で、会長は会場を選べる。昨年は熊本、1昨年は静岡、その前は京都、今年は久々の東京です。年間の報告数が1000人を越えたにも関わらず圧倒的な社会の無関心の嵐に倒れんばかりのさまざまな当事者たちと専門家集団が、久々の東京で民間会長の特性をいかした多様なプログラムでメディアや市民に訴え、無関心の壁に少しでも穴をあけたいと思うのです。

テーマ Living Together

～ネットワークを広げ真の連携を創ろう～

記念講演がすてき。ワクチン研究の最前線 Paul Johnson博士(ハーバード大学)とHIV陽性者国際ネットワークの初代代表、15年間国際的にエイズ対策最前線で活動してきたわが親友 Don deGagneさん(横浜国際エイズ会議以来の親日家)のおふたり。これぞまさに Bridging Science and Community(科学とコミュニティを結ぶ)ではありませんか。

記念シンポジウムは「エイズの中長期戦略をいかにつくるのか」。こういうテーマって従来の学会にはなかった。

プログラムも演題発表の他に、基礎医学、検査、診療、薬剤、歯科、ジェンダー、セクシュアリティ、福祉、心理、看護、ユース、移住労働者、薬剤耐性、チーム医療、啓発などなど幅広くカバーしています。「キャ、参加したいプログラムが同じ時間帯だ!!」というご不満はすでに想定内。「す

みません」と先に謝っておきます。これって仕方ないのです。

運営委員会はぶいれす東京の理事会にJaNP+から男女1名ずつ参加してもらって構成し、関係性と当事者性をキーワードに日本のエイズのリアリティーを提出することを狙っています。

学術集会前後にはコミュニティー・アクション・プログラムも計画中です。お楽しみに。この時期、閉じこもっていないで街に出ようじゃありませんか。

学術集会 11月30日～12月2日(木、金、土)

会場 日本教育会館、学術総合センター(東京都千代田区)

参加費 1万円 学生 5000円

第20回日本エイズ学会学術集会・総会のホームページ

URL:<http://www.ptokyo.com/20gakkai/>



NLGR2006

名古屋で今年もHIV予防啓発イベントNLGR2006が開催されました。ぶれいす東京Gay Friends for AIDSはブースを出展し、HIV陽性者の日常手記集「Our Days」の他、各種冊子を配布する形で参加しました。

6/10・11の両日、名古屋で開催されたHIV予防啓発イベント「Nagoya Lesbian & Gay Revolution」(略してNLGR)に行きまして。

ぶれいす東京ブースでは各種冊子の無料配布、また各ブースをまわるスタンプラリーが行われたのでそのお手伝いをしました。

二日目の朝は一時かなり激しい雨が降ってブース前に水溜りができるほどだったのですが、イベント中はゲイ・レズビアンイベントではありがちですが「なぜか雨が上がる」という怪現象が発生し、会場の池田公園にはたくさんの方が来場されました。ゲイやレズビアンだけでなく近くにお住まいの方も地元のお祭りに来るような感覚で来られていたようでした。

ぶれいすのブースにも近所の主婦仲間らしき二人組が来られたのですが、AIDSに関する質問をいくつか投げかけられたあと、僕たちに対して「皆さんはAIDSじゃないんですね？」と聞いてこられました。「目の前で普通に会話している相手が感染してるわけがない」というような感覚をお持ちなのかなぁと感じられましたが、検査してみないとわからないというような答えを返したときにちょっと神秘的な顔をされたのが印象に残りました。

僕にとってはイベントのブースを担当することが初めてで慣れないことも多かったのですが、主催ANGEL LIFE NAGOYAの皆様や近隣のブースの方にお気遣いいただき、どうにか無事に終わることが出来ました。最後になりましたがこの場を借りて改めて御礼申し上げます。(文責/sakura)



ぶれいす東京のブースにて

活動報告他 各部門より

ホットライン

エイズ電話相談 (ぶれいす東京および東京都委託)

ホットライン・ミーティング他活動状況 ()内は出席人数	
4月	2日 第3回マニュアル作成プロジェクト(9名)
	14日 東京都電話相談連絡会(2名)
	16日 世話人会(6名)/スタッフミーティング(19名)
5月	7日 第4回マニュアル作成プロジェクト(7名)
	12日 東京都電話相談連絡会(2名)
	21日 世話人会(4名)/スタッフミーティング(9名)
	27日 第5回マニュアル作成プロジェクト(5名)
	30日 平日フォローミーティング(5名)
6月	9日 東京都電話相談連絡会(2名)
	18日 スタッフミーティング(13名)
	第6回マニュアル作成プロジェクト(5名)

相談実績報告

ぶれいす東京エイズ電話相談

	4月	5月	6月
日数(日)	5	4	4

総時間(時間)	20	16	16
相談員数(のべ人)	7.5	6	6
相談件数(件)	53	27	38
うち(男性)	51	25	30
(女性)	2	2	7
(不明)	0	0	1
(陽性者)	1	0	0
1日平均(件)	10.6	6.8	9.5

東京都夜間・休日エイズ電話相談 (委託)

	4月	5月	6月
日数(日)	14	12	13
総時間(時間)	42	36	39
相談員数(のべ人)	40.5	34	35
相談件数(件)	298	232	254
うち(男性)	270	203	200
(女性)	27	28	53
(不明)	1	1	1
(陽性者)	2	1	0
1日平均(件)	21.3	19.3	19.5

3月から、相談件数が増加しています。傾向としては、前回の報告でもしたように、検査に関する相談が増加しています。6月には全国的に「検査週間」ということで、情報的に露出が多かったことが、その傾向に拍車をかけた感じでした。またネット情報のばらつきも影響しているようです。かねてからの懸案だった、+1稼働も、殆どどのシフトでできている状況で安定した運営ができています。(報告:佐藤)

ぷ☆PEP

若者による若者のための予防啓発活動

ミーティング・その他活動()内はぷ PEP参加人数

・活動報告会 5月28日(1名)

相談メール件数

4月:2件

5月:0件

6月:2件

年々相談件数が減少しているメール相談ですが、相談機関として機能させていくことはもちろんのこと、相談者とメールを介したコミュニケーションがこれまで以上に図れるよう、なるべくレスポンスを早くする、相談メールの文体を意識して返信メールの文面を作成する(例「こんにちわ メールありがとう」)などのいくつかの点を改善しました。相談件数は劇的に増加したわけではありませんが、ひとりの相談者から質問や相談のメールが何度も送られてくるようになったように感じます。

4月から6月にかけては、3月まで定期的で開催してきたイベントも終了し、ピアプログラムの依頼もなかったため、あまり積極的な活動ができなかったように思います。7月開催の定例ミーティングでは、今後の活動方針について検討する予定です。

(報告:じっつー)

バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

(第1木曜11:00~ 第3木曜18:30~)

4/6 4人 4/20 3人

5/11 2人 5/18 3人

6/1 3人 6/15 3人

利用者数

7カ所の病院に通院中、もしくは入院中の20名の方への30名のバディスタッフを派遣

活動内容(2006年6月末現在)

派遣継続中 20件

在宅訪問 13件

病院訪問 3件

在宅の電話のみ 1件

派遣休止 3件

4月~6月の派遣調整

新規派遣 2件

バディ担当中のスタッフ構成(6月末現在)

女性18名 男性10名

バディの現場から

5月に入り2件の派遣依頼がありました。1件は入院中の方からの新規の派遣、1件は以前バディ利用のあった方からの再度の派遣依頼でした。待機バディの方を調整しながらなんとか派遣をしておりますが、徐々に継続的な依頼が増えつつある中、バディも不足気味な状態でもあります。特に現在、平日の昼間に動けるバディが不足しています。9月にはボランティア研修がありますので、もし周囲に活動に興味がある方があれば、ぜひご紹介いただければと思います。(報告:牧原)

ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)*ファシリテーターなど)	
4月	27日	182名	(5名)	(8名)
5月	24日	206名	(11名)	(11名)
6月	26日	226名	(7名)	(9名)

(*はファシリテーター、web NEST 運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

カフェ・ネスト

5月 4日 16名

6月 4日 20名

ピア・グループ・ミーティング(PGM)

・新陽性者 PGM 第27期(参加者6名)

4/9 4/22 5/6 5/20(修了)

・新陽性者 PGM 第28期(参加者6名)

6/3 6/17

・陰性パートナー・ミーティング

4/8(2名) 5/13(2名) 6/10(3名)

・ミドル・ミーティング

4/8(5名) 5/13(6名) 6/10(9名)

・既婚者ゲイ・バイセクシュアルミーティング 6/16(5名)

・もめんの会 6/28(3名)

学習会/イベント

・第2回 Women's Salon

「陽性告知を受けてからの出会いと結婚」

4/23(スピーカー2、参加者4)

・ストレス・マネジメント講座1 5/8(参加者9名)

・ストレス・マネジメント講座2 6/12(参加者6名)

・ネスト庵初夏のお茶会 6/3(参加者19、ご亭主2)

ミーティング(陽性者メンバー、ぷれいす東京スタッフ)

・新陽性者 PGM ファシリテーター・ミーティング 5/25(6、6)

・web NEST 運営委員会

4/11(3、2) 5/2(3、2) 6/6(2、2)

- ・カフェ・ネストミーティング 4/12 6/14
- ・ネスト世話人会 4/28 5/18

ネスト・ニュースレター

4/20 4月号発行、5/15 5月号発行、6/12 6月号発行

*カフェ・ネスト 始まりました

ネストにいらした方々に心地よい時間を過ごしていただくために、カフェ・ネスト・ボランティアが午後のひととき、お茶やコーヒーをいれながらいっしょに過ごさせていただくことになりました。ふれいす東京のボランティア研修を修了したボランティアスタッフ2名が担当します。どうぞよろしくをお願いします。

カフェ・ネスト 毎週水曜日 13:00 ~ 16:00 オープン
(報告: はらだ)

Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動
<http://gf.ptokyo.com>

Gay Friends for AIDS 電話相談

- 4月 9件 (平均 2.25件)
- 5月 8件 (平均 2.0件)
- 6月 7件 (平均 1.75件)

NLGRにてブース出展

6/10(土) ~ 6/11(日)にNagoya Lesbian & Gay Revolution 2006の会場にて、「OUR DAYS」等の配布活動を行いました。(P5ご参照)

東京国際レズビアン&ゲイ映画祭でのブース出展

7/13(木) ~ 17(月)の5日間、パネル展示、OurDaysなどの資料配布などを行いました。また、ラウンジにてJILLさんのインタビュービデオを上映、スクリーンの幕間には30秒のLTメッセージビデオの上映を行いました。詳しくは次号にて。

Community Action for AIDS

8月12日(土)に開催された、東京レズビアン&ゲイ・パレード2006にブース出展をしました。エイズをテーマとしたフロートがパレードに初参加。詳しくは次号にて。

voice 開催予定

2007年1月21日(日)にvoiceを開催予定。

HIV陽性者への相談サービス

相談実績 2006年4 ~ 6月

2006年	4月	5月	6月
電話による相談	52	46	84
対面による相談	35	38	52
E-mailによる相談等	88	106	105
うち新規相談	17	15	19
メール新規は含まず			

新規相談者の属性 (N=51)

陽性者 (男性: 34、女性: 3)

パートナー (男性: 5、女性: 0)

家族 (女性: 7)

職場の人 (男性: 2)

新規相談者の情報源 (N=51)

web	16
知人の陽性者	5
電話相談	4
パートナー	4
医療機関	4
医師	4
パンフレット	3
知人からの紹介	3
家族から	1
検査所 / 保健所	1
他 NGO	1
看護師 / コーディネーター	1
ソーシャルワーカー	1
カウンセラー	1
不明	2

新規相談の内容

- ・告知直後にパートナーへの告知をどうするのか
- ・保健所の検査、在宅検査キット、健康診断のオプションの検査等で陽性が判明
- ・コンジローム治療、骨折の治療、泌尿器科の検査、潰瘍性大腸炎、発熱、喉の異変、カリニ肺炎等、治療のなかで陽性が判明
- ・病院のスタッフから紹介で、ネスト、PGMへの参加
- ・男性同士のカップルなので病棟スタッフがどう思うか不安
- ・妻、夫、兄弟などの家族からの相談 / 息子のセクシャリティと感染について
- ・外国人パートナーに関する相談
- ・経験の少ない医療機関、地方の医療機関での治療に不安がある
- ・告知を受けたが、どの病院にいったらいいのかがわからない
- ・地方での治療が不安で東京で入院した
- ・数年前のゴム無しセックスがあり不安だったが陽性だった
- ・ハッテン場や飲み屋にあまりいっていないが感染していた
- ・途上国への移住を考えている
- ・専門職なのだが、客商売をしているが大丈夫か
- ・生命保険について知りたい
- ・地方で入院中、福祉の情報提供を受けていない
- ・感染者とのセックスでの感染の可能性
- ・オーラルセックスでの感染の可能性
- ・感染している社員の受け入れ準備について

(報告: 牧原 / 福原 / 生島)

研究部門

厚生労働省 厚生労働科学研究

「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」(2006年度から)

大阪府立大学の東優子さんが主任研究者となって今年度より開始された研究です。代表の池上千寿子と運営委員長の生島嗣が研究に参加しています。

(報告: 吉田)

ボランティア募集!

あなたもできることから活動に参加してみませんか?

HIV/AIDSのケアと予防に取り組むぶれいす東京では、活動に参加してくれるボランティアを募集しています。今回募集するのは、以下の活動です。

- 1 HIV陽性者のサポート活動「パディ」
- 2 エイズ電話相談の相談活動「ホットライン」
- 3 若者向け予防啓発活動「ぶ PEP」
- 4 ゲイ向け予防啓発活動「Gay Friends for AIDS」

興味のある方は、まずはオリエンテーションにご参加下さい。活動に参加する・しないは、オリエンテーション終了後に決めてもかまいません。

ただし、スタッフとして参加希望をされる方は、その後に行われる3日間の基礎研修を受講し、修了後必ず活動に参加できる方とさせていただきます。

研修では、多才な講師陣の個性的な講義やワークショップを受講できます。ご期待下さい。

オリエンテーション

オリエンテーションに参加希望の方は事前にメールか電話で事務所までご連絡下さい。

日時 平成18年9月2日(土) 午後2時~午後4時(予定)
(受付は1時45分より)

場所 豊島区立生活産業プラザ8F 多目的ホール
豊島区東池袋 1-20-15 JR池袋駅東口より徒歩7分

研修日程

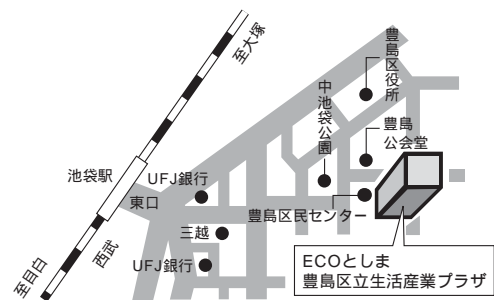
9月10日(日) 10:00~16:00
9月18日(月・祝) 10:00~16:00
9月23日(土・祝) 10:00~16:00

研修の内容、会場等の詳細は、オリエンテーションにて説明を行います。

研修に参加したいけど、オリエンテーションに参加できない、研修に全日程参加が難しいが活動に参加したい、という方は一度担当者までご相談下さい。

[お問い合わせ・お申し込み]

ぶれいす東京 事務所(受付時間 平日12:00~19:00)
TEL 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835(担当 牧原)
Mail: info@ptokyo.com
URL <http://www.ptokyo.com>



ぶれいす東京より 賛助会員入会・寄付のお願い

HIV陽性者の数は年々増え続けています。新たな治療法は開発されていますが、治療を続けながら生活する上では様々な問題が発生しています。HIV陽性者とその周辺の人たちへの支援、コミュニティとして取り組んでいる予防活動等、私たちの活動へのニーズがますます高まっており、必要な運営資金も増え続けています。よりよいサービスやプログラムを継続するために、ぜひ私たちの活動を応援してください。

賛助会員入会のお願い

継続して応援して下さる方は賛助会員になってください。

--- 賛助会員になるには? ---

メールか電話/FAXで賛助会員入会をお申し込みください。折り返し、ぶれいす東京の案内と賛助会費専用の振込用紙をお送りします。

E-MAIL info@ptokyo.com
電話 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835
年会費 個人賛助会員(一口) 1万円
団体賛助会員 (一口) 10万円

寄付のお願い

そのほか随時寄付をお受けしています。ぶれいす東京の活動をぜひともご支援ください。ご寄付はいくらでも結構です。匿名でも可能です。

--- 寄付の振込み方法 ---

ぶれいす東京の活動全般に対する寄付
郵便局 郵便振替口座 No.00160 - 3 - 574075
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子
銀行 三井住友銀行 高田馬場支店 普通 2041174
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子

HIV陽性者への直接支援活動「ネスト/パディ」への寄付
銀行 三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1314375
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 代表 池上千寿子

Gay Friends for AIDSの活動への寄付
銀行 みずほ銀行 高田馬場支店 普通 5507255
特定非営利活動法人 ぶれいす東京 理事 生島 嗣

編集後記

- ・せせらぎのCDを聞くのがマイブーム 涼しい気分になれて気持ちも穏やかになります!(こんどう)
- ・8月の初めに編集作業を終えて、ゆっくりと夏休みを過ごすつもりだったのが月末にずれこんでしまいました! 小学校の夏休みの宿題もこのパターンだったなあ~(やじま)
- ・日本エイズ学会の準備のために、これまでとは比にならない幅広い分野の方々と共同作業をする機会が増えました。大変さもあるけども(相手はもっと大変?) 刺激的で楽しい経験です。皆様も一緒にしませんか?(いくしま)

編集・発行: 特定非営利活動法人 ぶれいす東京
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス304
TEL: 03-3361-8964(月・金 12:00~19:00)
FAX: 03-3361-8835
E-mail: info@ptokyo.com
ぶれいす東京HP: <http://www.ptokyo.com/>
Gay Friends for AIDS: <http://gf.ptokyo.com/>
web NEST: <http://web-nest.ptokyo.com/>
Sexual Health: <http://shw.ptokyo.com>